

Ruhe (ルーエ やすらぎ)

März 2011

25

The German House in Naruto

発行日 2011年3月31日
発行 鳴門市ドイツ館
編集 川上三郎
〒779-0225
鳴門市大麻町絵字東山田55-2
TEL:088 689 0099 FAX:088 689 0909
URL: http://www.city.naruto.lg.jp/germanhouse/
e-mail: doitungan@city.naruto.lg.jp

ドイツ兵捕虜孫娘夫妻の来館

昨年から今年にかけても鳴門市ドイツ館には、板東のドイツ兵捕虜の子孫の来訪や問い合わせなどがいくつかありました。そのひとつを、ここにご紹介いたします。

9月下旬、ドイツ館にマリオン・ズーア=モイリヒと名乗る人から電子メールが送られて来ました。それによると彼女は、第一次世界大戦時の板東俘虜収容所にいたカーステン・ヘルマン・ズーアの孫娘であること、幼少より父親(つまり元捕虜の子息)

から板東と松江豊寿所長のことをずいぶんと聞かされて育ったそうで、それをきっかけに日本語を学んだとのことでした。実際そのメールはドイツ語のほかに、みごとな日本語も書かれていて、とても外国人が書いたとは思えないほどでした。後日、お会いしたときにも流ちょうな日本語を話し



カーステン・ヘルマン・ズーア (上海で撮影)

ていました。お聞きすると早稲田大学に4年間在籍していたとのことですが、それにしてもすばらしいの一言です。

マリオンさんは続けて、松江豊寿は最高の人徳である人類愛を象徴する人物であり、非常に尊敬していると言いき、それがために会津若松市にある氏のお墓参りまでしたことがあるほどだそうです。そして父親の意志もあり、祖父が板東に収容中に描いたスケッチを「板東の精神、板東から発した民族の絆の歴史に敬意を表すため」贈呈したいので、ドイツ館を訪問したいとのことでした。

私たちにとっては、これによって元捕虜にかかわる貴重な品がまた増えることで、願ってもない申し出であり、非常にあり

がたくお受けすることにしました。そして10月29日、ズーア=モイリヒご夫妻がドイツ館に連れて、マリオンさんから



ズーア=モイリヒ夫妻

待望のスケッチ画の贈呈をいただくと共に、ズーア家でスケッチ画が壁に飾られてきたことや、板東と松江所長にまつわる話を父親がしていたことなどをお聞きました。祖父は板東では不自由ということを感じたことがなかったそうです。そして祖父の板東での体験から、戦争と平和の問題に強く関心を持つようになったそうで、TBS系列でかつて放送されていた「世界うるるん滞在記」という番組でドイツ国際平和村を取り上げる企画を出したのがマリオンさんであったという裏話まで聞かせてもらいました。

ところで、板東俘虜収容所の史料を調査研究する者にとって、ズーアという名前はなじみ深いものです。と

いうのも、収容所新聞『ディ・バラック』の記事などから1918年3月に板東町内で開催された「俘虜製作品展覧会」に作品を出品していて、線描画の部で一等賞を取っています。さらに、彼の描いた板東周辺のスケッチ画が何枚も『ディ・バラッ



贈呈されたスケッチ画

ケ』に掲載されていて、またそれがとても印象的なのです。それだけに、肉筆を目にすることができるのは非常に嬉しく、興奮しました。今回、原画だけでなく、コピーとしてさらに収容所近辺を描いた22枚の絵画や第二次世界大戦前、中国に住んでいた頃の祖父の写真、「俘虜製作品展覧会」で取った一等賞の賞状など貴重な史料もいただきました。ここで改めて深く感謝したいと思います。

さて今回いただいたスケッチ画も、収容所近く大麻比古神社の境内を描いています。現在もはや画に描かれた鳥居はありませんが、その下に見える3段ほどの石段はそのままです。写真ではよく見えないかもしれませんが、絵の四隅にいくつもの押しピンの跡があります。これはズーア家でこの絵が壁に貼り付けられていた跡です。

ドイツ館周辺散歩

ドイツ館の周辺には、阿波一宮である大麻比古（おおあさひこ）神社と四国霊場一番札所の霊山寺（りょうぜんじ）、二番札所の極楽寺などの神社仏閣があり、徳島県外からの人々の姿も多く見かけられます。特に最近「歩き遍路」といって、徒歩で札所巡りをする人もときどき見かけます。昨年もそうやって四国を一周したドイツの若者がいました。

一方、ここは市街地から遠く、田園地帯の趣の濃厚なところでもあります。自然の中のサイクリングも楽しいものです。私も捕虜が撮った写真の撮影地を探るとき、しばしば自転車を使いました。というのも、この辺りは道幅の狭い場所が多く、自動車同士のすれ違いを気にせず、また気の向くままに自由に走っていただけるからです。

ドイツ館では自転車の貸し出しを無料で行っております。また電動自転車も用意しています。ドイツ館に来て時間がありましたら、ぜひご利用ください。収容所跡地とドイツ橋など関係遺跡めぐりにも便利だと思います。

もうひとつ紹介したいのは、ドイツ館からバンドーの鐘を経由して収容所跡地まで行くコースです。これはドイツ館の横の丘を通って行く山道です。一応ある程度の手入れはされているのですが、特に梅雨以降は道脇の雑木と草が生い茂り少々歩きにくいのと、まむしが出る可能性がありますので、散歩コースとして良いのは晩秋からせいぜい5月初旬ぐらいでしょうか。ドイツ館からバンドーの鐘まで約20分、そこから収容所跡の慰霊碑まで15分もあれば十分歩けます。

ドイツ館収蔵品紹介

板東でのドイツ兵捕虜の活動は、スポーツ、音楽、演劇といった余暇を享受するものだけでなく、商業、手工業、野菜栽培、養鶏、養豚といった実益的なものもありました。さらに多岐にわたるテーマの学習会、講演会なども頻繁に行われていました。今回はこの学習活動に関連する史料を取り上げたいと思います。ドイツ兵達は何事につけても研究熱心で、よく読書をし、勉強をしていたことは、彼らを観察していた全国の収容所側で衆目の一致するところで、その点には敬意を持ってさえいました。

まず松山、板東で日本語通訳として活躍したクルト・マイスナーが書いた日本語教科書があります。マイスナーの日本語教科書には口語を対象とする『日常日本語教程』と文語文法の2種類があって、どちらも所蔵するのはタイプライターを使ったカーボンコピー版で、それを製本したものです。厚紙表紙の立派な背革で製本されているので、外注したものでしょう。

板東俘虜収容所では、頻繁に講演会が開催されていました。ドイツ館には、その講演会の関連資料（開催時に配布されたものや講演者が後にまとめ直したものなど）がいくつかあります。

聴衆は兵士なので当然ですが、軍事的なテーマの講演がいくつもありました。青島での戦闘、ヨーロッパ戦線のような同時代的なものから、古代の戦争あるいは要塞建設法などいろいろです。当館が所蔵するものは写真の「潜水艦戦争とその効果」という資料以外、表や図など断片的なものが多いです。

それ以外の分野では単発的な講演もありましたが、何よりもシリーズ講演に見るべきものがあります。収容所新聞『ディ・バラッケ』の記事によれば、後に大阪外国語学校の外人教師となったポーネルの「ドイツの歴史と芸術」（36回）、ゾルガーその他数人による「中国のタバ」（43回）、マーンフェルトの「近代ドイツ史」（34回）、そしてゾルガーの「郷土研究」（72回）がありました。これらについても講演資料をいくつか所蔵しています。

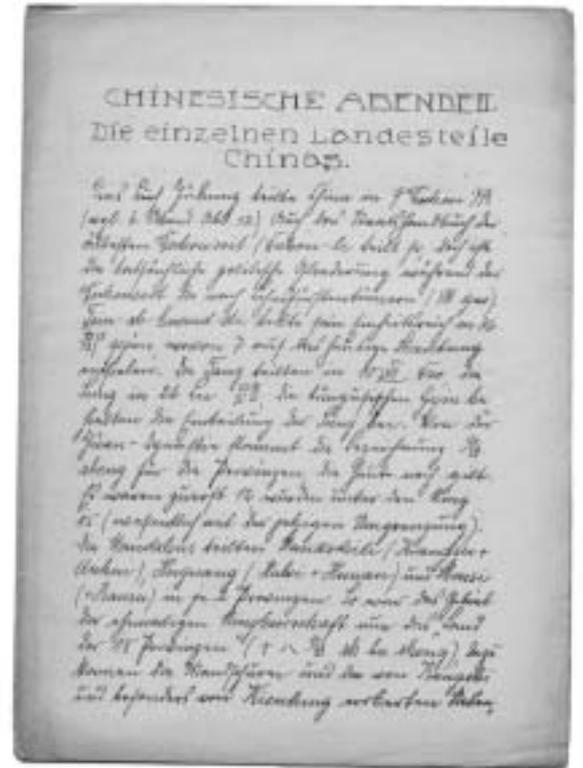
この中で圧巻は「郷土研究」で、講演者のゾルガーは青島戦以前は北京大学教授、のちにベルリン大学教授となった人ですが、啞然とするほどの博識ぶりを見せています。「郷土研究」と訳した元のドイツ語はHeimatkundeです。これは元来小学校の教科であり、むしろ「私たちの郷土」とでも訳す方が適切なのですが、板東での講演ははるかに高度な内容が語られています。また「郷土」という枠に収まりきれない多彩な分野、たとえば生物学、進化論、地学、遺伝学、生理学、考古学、史学、言語



「日本語文語文法」献呈辞（左）と中表紙



「郷土と父祖の血」の内部ページ



「中国の夕べ」配付資料

学、哲学などにわたる内容が盛り込まれています。写真の「郷土と父祖の血」は「郷土研究」をまとめて一冊の本として出版したものです。

『ディ・バラック』には記載されていないのですが、所蔵史料の中に「ニーベルンゲン、フリードリヒ・ヘッベル作3幕ドイツ悲劇」というタイトルの32ページの印刷物があり、中にメモされた日付からその講演が1919年9月から11月にかけて3回ほどに分けて行われたようです。

ミニ知識

板東と鳴門市

ドイツ兵がいたこの地の捕虜収容所は、現在鳴門市にあります。それが「板東俘虜収容所」という名称の由来です。この板東町が後の市町村合併で大麻（おおあさ）町の一部となり、次いで大麻町が鳴門市に編入さ

れたというのが歴史的経緯です。現在「板東」という地名は大麻町の大字名で残り、JRの駅名、学校名などで使われています。

ちなみに、こちらの「板東」はよく「阪東」とか「坂東」に間違えて書かれてしまいます。もともと阿波国「板野（いたの）郡」の東部という意味なので、「板東」が正しいのです。

3月までの主な行事と特別企画展

日本ではあまり知られていませんが、2010年7月ドイツの新しい大統領にニーダーザクセン州ヴルフ前首相が就任しました。これはドイツ館だけでなく、鳴門市にとって感銘深いことでした。というのも、鳴門市はリュネブルク市と古くからの姉妹都市で、毎年使節団を交換しあっていますが、このリュネブルク市はニーダーザクセン州にあるのです。そのような関係もあり、当時のニーダーザクセン州首相ヴルフ氏が2005年6月のベートーヴェン「第九」演奏会とドイツ館の「ニーダーザクセ

ン州展示コーナー」のために鳴門に来られたことがあります。このような鳴門とリュネブルクの親密な交流が縁で、2009年から徳島県がニーダーザクセン州と友好交流を行うようになりました。そのためにその年にヴルフ州首相が来県し、ドイツ館にも再度来館されたのでした。そこで、ドイツ館ではヴルフ大統領就任記念展を催すことにしました。準備に手間取ってずいぶん開催が遅れましたが、大統領からのメッセージもいただき、大統領府からは就任式当日の写真を何枚もいただきました。この折衝には、ニーダーザクセン州政府に勤務する元国際交流員のマティアス・ヒルシュフェルドが当たってくれました。

「ドイツ鉄道開通175周年展」は国際交流員アンヤ・ハンケルの企画です。彼女の親戚が旧東ドイツ国鉄に勤務していた関係で、鉄道マニアが喜びそうな小物や資料も展示していました。

2月には女優の東ちづるさんが来て、「トークとよみきかせ」がありました。これはドイツ館の「ドイツ国際平和村写真展&東ちづる原画展」にあわせて開催された講演会なのですが、その実現には先に紹介したマリオン・ズーア=モイリヒさんの口添えがありました。おふたりは、ドイツ国際平和村が縁だと思えますが、親友なのだそうです。

- 9月1日(水)～15日(水) ドイツ鉄道開通175周年展
- 9月12日(日) トリオアアテム in 徳島 ～秋の演奏会～
- 9月18日(土)～30日(木) シュピーゲル写真展
- 10月1日(金)～24日(日)
リュネブルク展&日独交流150周年記念展
- 10月6日(水)～24日(日) パレツェ会絵画展
- 10月17日(日) 日独交流150周年 ヨーヨー・クリステン
ピアノコンサート
- 10月24日(日) 第17回ドイチェス・フェスト in なると
- 11月1日(月)～14日(日) 濱口芳春スケッチ画展
- 11月12日(金) 日独スポーツ交流シンポジウム
- 11月14日(日) RAKUGO×ドイツ館 笑っちゃう会
- 11月16日(火)～12月6日(月) ヴルフ大統領就任記念展
- 11月25日(木)～12月12日(日)
ドイツクリスマスマーケット展
- 12月12日(日)
ドイツ館のクリスマス会&影あそびジョイホナ公演
- 12月19日(日)～1月29日(土) 奥山実秋絵画展
- 2月1日(火)～20日(日)
ドイツ国際平和村写真展&東ちづる原画展
- 2月2日(水)～24日(木)

- ベートーヴェン「第九」となると ～その歴史と発展～
- 2月12日(土) 東ちづるトーク&よみきかせ
- 2月13日(日) ドイツ館映画祭
- 2月20日(日) 第4回フリーデンスフェスト
- 3月1日(火)～15日(火)
「鳴門百景」フォトコンテスト入賞作品展
- 3月13日(日) 吹浦忠正講演「世界の捕虜・日本の捕虜
～捕虜は文化交流のキーマン～」
- 3月20日(日) 鳴門&ドイツ 民話で結ぶ音楽物語

これからの行事予定

「リュネブルクからの寄贈品展」は、鳴門の姉妹都市リュネブルクからこれまでに折にふれ頂戴してきた品々が、これまで市民の方々の目に触れる機会がなかなかなかったので、広くその内容を知ってもらおうという企画です。

- 4月23日(土) ドイツ館のイースター祭
(中止するかもしれません)
- 5月1日(日)～10日(火) ドイツワイン紹介展
- 5月14日(土)～22日(日) ドイツ鉄道パネル展
- 5月22日(日) ドイツ館の鉄道会
- 6月1日(水)～15日(水) リュネブルクからの寄贈品展
- 7月2日(土) セタコンサート
- 7月15日(金)～31日(日) 「ドイツさん」の生活
- 8月3日(水)～15日(月) ドイツビール紹介展
(企画イベントにつきましては変更する場合がありますので、ご確認下さい。)

👁️ 編集後記

この記事を書き上げる直前に、東北と関東を巨大地震が、次いで大津波が襲いました。この未曾有の大災害の被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。

その後の福島第1原発の事故も非常にショッキングなことで、おびえながらも推移を見守る他ありません。この事故により日本に滞在する外国人は次々帰国しています。当館の国際交流員アンヤ・ハンケルも幼い子供2人とともに一時帰国しました。一刻も早く状況が安定して、彼女が早期に当館の仕事に復帰できることを期待しているところです。